令和５年度

事業報告書

令和６年５月９日

一般社団法人 CARNIVAL WORKS

概要

ただ、オモシロイ未来をみんなで創る。

Create an interesting future

たくさんの笑顔で人と人とが繋がりあい、

ワクワクする冒険心を掻き立てるような

様々なプロジェクトに私たちは取り組んでいます。

ひとりひとりの心躍るストーリーは世界を変えると信じて。

令和５年度事業概要

（１）DRY　FLOWER　PROJECT

（２）無料塾 FOUR‘S　STUDIO

（３）ANNEAU CAFE

（４）食と対話で支えるひとり親サポートプログラム

（５）中高生 SOCIAL ACTION！

（１）DRY　FLOWER　PROJECT

【目的】

廃棄寸前の花をアップサイクルし、ドライフラワーにて販売するという過程で、様々な困難を抱えた人たちの社会参画の機会を創出。また販売プロデュースを高校生・大学生が行うことで次世代の人材育成となり、収益は子ども食堂などに寄付することで、寄付文化を根付かせ、地域全体で子ども・若者を支える循環型の地域を生みだす。

【事業概要】

① ロスフラワー回収

廃棄寸前の花の回収を行いドライフラワーにアップサイクルする。ＳＤＧｓの視点からも地域・企業連携を促進する。

② ドライフラワー製作

ドライフラワーを創るのは子育て世代の母親や児童養護施設等様々な背景を抱えた子どもたち・若者たち。困難を抱える人たちの社会参画の機会を創出。

③ 販売・人材育成

販売をプロデュースするのは次世代を支える高校生・大学生。子ども・若者の社会課題を考える機会を生み出す。

【事業実績】

■日時　令和 6 年 1 月 20 日

■場所　郡山ビッグパレット（ふくしま SDGs 推進フォーラム）

■販売スタッフ：高校生 2 名　製作スタッフ：ひとり親家庭等保護者 2 名

■来場者　約 300 名

高校生スタッフが主体となった子育て支援チャリティ活動を行うことで子ども

を取り巻く現状の発信や子育ての啓発を丁寧に行うことができた。

学生中心かつ、このようなサステナブルな取り組みは、連携・支援団

体の増加を生み出し SNS でのシェア等、地域全体で子育てを支える気運を上昇させることができた。

【連携企業】

■あとりえ悠然（ロスフラワー提供）

■yuki flower（ロスフラワー提供）

■FOUR'S MARKET（制作場所提供）

（２）無料塾 FOUR‘S　STUDIO

【目的】ひとり親家庭を含め様々なご家庭を対象に、教育格差をなくし、楽しみながら子どもたちが学ぶことを目的とする子ども食堂の要素も取り入れ、食べること、学ぶこと、そして保護者同士の連携など多様なつながりを提供する。

【事業実績】

No.	開催日	曜日	参加人数（名）			ボランティア			
			大人	子ども	合計	高校生	大学生	社会人	合計
1	4 月 3 日	月	7	10	17	6	1	0	7
2	4 月 7 日	金	5	12	17	1	1	2	4
3	5 月 10 日	水	5	13	18	11	6	2	19
4	6 月 28 日	水	9	15	24	7	7	2	16
5	8 月 30 日	水	11	20	31	8	3	1	12
6	9 月 13 日	水	7	13	20	4	1	0	5
7	10 月 2 日	月	9	16	25	4	3	0	7
8	11 月 22 日	水	9	16	25	3	10	4	17
9	1 月 31 日	水	11	18	29	10	9	3	22
10	2 月 21 日	水	10	15	25	9	3	0	12
合計			83	148	231	63	44	14	121

① 居場所としての機能

子ども食堂型無料塾は居場所として機能し、ひとり親家庭はもちろんのこと困難を抱えたり、また困難を抱える恐れのあるご家庭に対し、間口を広く設定することで参加のハードルを下げ、いざという時に保護者も子どもも相談できる居場所としての機能（食べる・学ぶ・遊ぶ）を充実させることができた。

②教育の機会均等

無料塾は、様々な背景を抱えた家庭の子どもたちにも丁寧な教育を提供することで、教育の機会の均等化に貢献できた。これにより、社会的・経済的階層に関わらず、すべての子どもが能力を伸ばし、貧困の連鎖を食い止める一手を微力ではあるが示せていると考える。

② 非認知能力を育む

無料塾では異年齢の交流や多世代交流を積極的に導入することで、学業だけではなく、様々な体験を通して、通常の学校教育ではカバーされにくいコミュニケーション能力や非認知能力などの力を育むことができた。

③ 自己肯定感の向上

子どもたちは上記のような力を育みながら、家庭と学校以外にも居場所を見つけることは、「これでいいんだ」という自己肯定感を育むことにもつながっていると考えられる。また無料塾が居場所になっているのは

子どもだけではなく、保護者にとってもつながりの場、居場所になっており横のつながりで支え合いながら、専門相談員がいることで相談支援の場としても機能することができた。

④ 高校生・大学生ボランティアスタッフの充実

子ども達にとっても年齢の近い学生ボランティアスタッフの存在は大きく、また来たいと思えるきっかけになるのはもちろんのこと、将来こうなりたいと思える身近なロールモデルの存在があることは、子どもたちの生きる目標にもなっていた。学生にとっても、子ども達の現状を知り課題を知りながら、アクションを起こしボランティアスタッフとして地域や教育に貢献できることは将来の進路選択にも大きな自信になり、福島に貢献したいと思う意識をしっかりと醸成することができた。

【連携企業・学校】

■FOUR'S MARKET（運営協力）

■株式会社いちい（運営協力）

■一般財団法人ふくしま未来研究会（広告協賛）

■一般社団法人福島馬主協会（ご寄付）

■社会福祉法人太陽学園（物資提供）

■福島高校・桜の聖母短期大学等（ボランティア・授業連携等）

（３）ANNEAU CAFE

【目的】子どもたちの社会課題を提起し、地域と共に考え、寄付（チャリティ）という形で全員参加型のまちを生みだす。1 杯のコーヒーを通して、福島に寄付文化を根付かせ、社会課題を解決する仕組みを創出していく。

【事業実績】

～開催①～

■日時　令和 5 年 12 月 24 日

■場所　福島駅東口駅前広場

■学生スタッフ　大学生 4 名　高校生 10 名

■来場者　約 300 名

～開催②～

■日時　令和 6 年 1 月 20 日

■場所　郡山ビッグパレット（ふくしま SDGs 推進フォーラム）

■学生スタッフ　高校生 2 名

■来場者　約 300 名

高校生・大学生が中心となった子ども食堂へのチャリティカフェ anneaucafe も 3 年目に突入し、高校生たちが日々発信し続けた SNS でも大きな反響を今年も呼ぶことになり、たくさんの来場者に恵まれた。学生にとってもチャリティイベントは達成感が大きく、レイアウトやお客様への声掛けまで自分たちで考え実践していくことは自信にも繋がりまた、子ども達や子育て、教育のことを改めて考える契機となり、これからの人生に大きな影響を与えるイベントとなった。チャリティイベントには外国にルーツを持つ方、障がいをお持ちの方等、多様な人が訪れた。多様性を持つ人が集まり、誰もが受け入れられる社会的包摂性を持ったコミュニティスペース（居場所）として anneau café が機能したことは当初予定していなかった驚きであった。

また、この様な啓発活動、チャリティイベントを行うことは、待ち行く人はもちろんのこと SNS やメディアでも取り上げられることで、次年度以降の新たな取り組みに向けた繋がりが創出され、子育てを支える地域が益々促進されている状況にある。

チャリティカフェ *anneaucafe* の売上・募金の合計額 *84,907* 円は

令和 *6* 年能登半島地震子ども食堂への寄付及び無料塾 *FOUR'S STUDIO* での活動（ひとり親家庭食材支援含む）で活用いたします。

カフェ経費 *22,219* 円・振込手数料 *660* 円を除き

令和 *6* 年能登半島地震の子ども食堂支援・・・*40,000* 円

無料塾 *FOUR'S STUDIO* での活動・・・*22,028* 円

※尚、能登半島地震の支援先は下記となります。

団体名：*NPO* 法人ささえる絆ネットワーク北陸(こども食堂部門:かなざわっ子 *nikoniko* 倶楽部)

基金名：「令和 *6* 年能登半島地震こども食堂応援基金」

【連携企業・団体】

■株式会社いちい（運営協力）

■せいざん（販売・指導）

■福島県復興・総合計画課（フォーラム出展）

ふくしま矯正歯科
Fukushima Orthodontic
指定緊急避難場所
This is an Evac
anneaucafe
anneaucafe

湘南美容クリニック
イーオン

（４）食と対話で支えるひとり親家庭サポートプログラム

【目的】

ひとり親家庭を中心に毎月１回程度の食の支援とSNSなども活用した相談支援や実際の相談の場を設け、一層見えにくくなっている孤立を防ぎ、SOS を拾える地域づくりを行なう。

【事業実績】

開催月	支援人数（名）		
	家庭数	子ども	合計
4 月	5	12	17
5 月	17	37	54
6 月	15	28	43
7 月	15	25	40
8 月	9	14	23
9 月	13	26	39
11 月	20	32	52
12 月	24	44	68
1 月	12	20	32
2 月	15	24	39
合計	145	262	407

本取り組みにより経済的および精神的な困難に直面している（または直面しそうな）ひとり親家庭家庭を多く支えることができた。食材支援については、ひとり親家庭の困窮に対処するとともに、物価高による食

費の負担軽減と相談支援の入り口として機能した。支援食材については、福島市子ども食堂 NET や地域企業また個人ともしっかり連携し、また新規支援先も多く開拓することができ、地域全体で子育てを支える気運醸成にも寄与することができた。個人からの寄付物資や企業と連携したフードドライブ物資などにより余剰食品を捨てることなく回収し、それを必要とする家庭に配布することは食品ロスの削減にも大きく貢献したと考えられる。相談支援としては、ひとり親家庭が抱える様々な課題に丁寧に対応することができた。心理的なサポート、育児や仕事との両立に関するアドバイス、法律相談、就労支援、住居に関する相談支援などを一時窓口として丁寧に対応しながらも、必要に応じて各関係機関（母子シェルターや児童家庭センター等）と連携しながら相談及び解決にあたった。困難を抱えた家庭にとって専門相談機関や個別に相談できる場があることは、心理的な負担軽減や社会生活の質向上につながり、孤立させることなくいざという時にひとり親家庭を支えるネットワークが本事業により構築されたと考える。

【連携企業・団体】

■福島中央テレビ　■やわらかからあげ味工房　■株式会社いちい

■一般財団法人ふくしま未来研究会　■一般社団法人福島馬主協会

■molico　■福島市子ども食堂 NET

（５）中高生 SOCIAL ACTION！

～福島県こども・青少年政策課委託事業～

【目的】

社会課題がまん延し、SDGs が声高に叫ばれる昨今。次世代を担う高校生世代が、用意された正解がない中で、自ら疑問を持ち、問いを立て、考え行動し、自分なりの変化を起こしていく力を育むことを主眼に置く。一つの課題を学んで一つの側面から解決するのではなく、様々な課題を知り学ぶことで、社会課題を若い新たな視点で多面的に捉え、複合的に解決していくことを地域と共に行っていく新たな「探求」を。

【事業実績】

参加者 24 名

内訳：中学生 2 名　高校生 18 名　サポート大学生 4 名

～12 日間の地域探究プログラム「中高生 SOCIAL ACTION！」～

参加初日に見せた緊張した表情が、参加回数を重ねていくにつれ自身に満ち溢れた表情に変わっていく様子が、しっかりとうかがえた中高生 SOCIAL ACTION！。アンケート結果からも、このプログラムに参加した中学生、高校生たちは、社会問題に対する認識と関わり方が大きく変容していることが分かる。参加前、多くの中高生は子どもを取り巻く社会問題や

企業の社会貢献などを遠い存在と捉え、自分には関係ないものと考えがちであった。しかし、実際に地域社会での活動に参加し、社会問題に直面することで、問題の現実性と緊急性を実感し、問題解決に向けて自分たちができることを探求し、具体的な行動（SOCIAL ACTION）を起こすことの重要性を学んだ。また、チームワークとコミュニケーションのスキルが非常に大きく向上し、他者と協力して目標を達成する経験を通じて、自己効力感と社会への貢献意識が高まったと感じている。

① 社会課題への意識の変化

プログラムを通じて、地域や世界の社会課題に対する理解が深まり、より積極的に問題解決に取り組む姿勢を見せるようになった。

②本プログラムでの学び

チームワーク、リーダーシップ、問題解決スキルなど、社会に出てから役立つ多くの能力そして自己効力感と主体性を持つことができた。

③地域の変化

中高生たちの行動は地域社会に肯定的な影響を与え、地域住民との関係強化や地域課題への意識向上に大変寄与することができた。

④行動と意見表明

多くの中高生が、社会課題を自分事としてとらえ、主体性を持つこ

とで小さなアクションを起こすことができ、課題に対する意見を表明し、今後も社会貢献活動に参加し続ける意志を示すことができた。

本プログラムが中高生にとって、社会課題への深い洞察を得るとともに、自分たちの行動が社会にポジティブな影響を与えることができるという自信をつけ、価値観や人生観に大きな影響を与えたことはアンケートからしっかり読み取れる。中高生が将来のキャリア選択や日常生活における意思決定に、自信をもって歩みを進めていくことは、地域社会にとっても、今後の福島にとっても大きな大きな影響を与えると考えられる。

※アンケート結果は中高生 SOCIAL ACTION！HP をご覧ください。

【企業連携】

■福島中央テレビ　■株式会社いちい　■株式会社こんの　■福島ガス

■株式会社デイリーサービス　■特定非営利活動法人ビーンズふくしま

■福島市子ども食堂 NET　■特定非営利活動法人はーぐる

■特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会

■まちなか夢工房

誰かを幸せにする

MERRY MERRY SWEETS♥

社会課題の解決に取り組む「中高生SOCIAL ACTION!」の学生メンバーが、まちなか夢工房さんの全面協力を得て完成した3種類のスイーツ。
経費を除いた売上は、妊娠や性に関することで悩む方を一人でもなくしたいという想いで活動しているNPO法人はーぐる及び福島市内の母子生活支援施設に寄付します。

誰かを想うその気持ちが、誰かを幸せにする。
全ての人が誰かのサンタクロースに。
MERRY MERRY SWEETS

～ 会議室利用時のお願い ～

（第三種郵便物認可）

マリールイズ理事長の講演を聞く参加者ら

「福島のため」中高生始動

ＳＤＧｓなど社会課題探る

政策提言プロジェクト

県北地域在住の中高生が社会課題を学び、県へ政策を提言するプロジェクト、「中高生ソーシャルアクション！」は2日、福島市のウィズ・もとまちで始まった。参加者が持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）などの社会課題の解決に向けて理解を深めた。

一般社団法人カーニバルワークスの主催で、県北地域の中高生約10人が参加。初回はＮＰＯ法人ルワンダの教育を考える会の永遠瑠（とわる）マリールイズ理事長が日本でのホームステイや難民キャンプで過ごした経験などを紹介。まちなか夢工房（福島市）の斎藤功施設長はＳＤＧｓへの取り組みなどについて説明した。参加した福島市在住の黒沢菜月さん（18）は「自分が福島のために何かできることはないかと思い参加した。ルワンダの文化をもっと知りたくなった」と話した。

プロジェクトは10月下旬ごろまで続き、社会課題解決に向けたイベントの企画・運営なども行う予定。

看護現場の体験談語る

福島 高校生向けにセミナー

体験談を語る木村さん㊨と柳沼さん

県教委は1日、福島市の福島医大で看護職を目指す県内の高校生を対象にしたメディカルセミナーを開催した。参加者が看護の現場で活躍する看護師らの話を聞き、関心を高めた。

県内の高校2年生約15人が参加。同大付属病院看護技師の木村香珠さんと柳沼桃花さんが「私の歩